

「全鍍連」 2016年 2月号 理事長のよこがお

東北・北海道表面処理工業組合理事長 三浦修市(株)ケディカ 代表取締役会長)

「表面処理と子供達」



東北、北海道では今ではあまり使われなくなりましたが、子供達を方言で「わらし」と言います。皆さんも妖怪「座敷わらし」の事は聞いたことがあるのではないのでしょうか。家人に悪戯を働けど、実は見た者には幸運が訪れるそうです。(詳しくは柳田國男の「遠野物語」をお読みください。)

さて、表面処理と子供達の関わりは、33年前、仙台青年会議所に在籍している時代、青少年開発委員会に所属し、「わんぱく相撲大会」を任された時からでした。参加賞にプレスしたハート型金めっきプレートを全員に手渡したところ、とても喜んでくれたのです。この様な事が弊社の企業理念である「表面処理を通じて地域社会の発展に貢献する」ことにつながるのではないかと考えるようになりました。

まずは会社と私がお世話になっている地域にある「児童センター」を訪問し、各種イベントの応援や、めっきされている用具遊具の提供、めっきへの関心を深めてもらうために弊社の各種めっきグッズの紹介から始めました。

次に「仙台市青葉青少年少女発明クラブ」を2006年に共同で立ち上げ、小学4年～6年までの男女35名位を毎月二足歩行ロボットを組み立て、それを動かす動作のプログラミングをしてもらい、年度末にロボコン大会を開催しました。また、年度毎に「親子めっき講座」を開催し、石、葉っぱ、樹脂、木の実等々の表面に各種めっきをさせたところ、子供達は目を輝かせ興味津々でした。その後めっき現場を保護者共々見学してもらったことは、めっきへの深い理解につながったと思います。

また、仙台七夕では、アルミ板に子供達が願い事やイラストを描いてアルマイトした短冊とLEDを飾った竹竿に取り付け展示したところ、市民から大好評でした。(紙以外の材料での七夕は初めてであり話題になりました。)

東日本大震災から今年の3月で5年になりますが、東北各県のめっき企業は震災前に近い状況まで回復しております。あらためて、ご支援、義援金等たくさんの励ましのお言葉を頂きありがとうございました。

大震災後のこの数年は、めっきと子供達に関わる活動として、小学校への「出前めっき」となる理科特別授業「水溶液の化学とめっき」に延べ32校1449名の生徒が参加し、めっきの話と実験をさせたところ、目を爛々と輝かせ歓声をあげていました。

子供向け展示会イベントでは「東北大学サイエンスデイ」に東北・北海道表面処理工業組合と協賛で出展し「クラブへのめっき」をしたところ青少年が行列をつくり大盛況でした。

2015年6月にはフィリピンのケソン市にあるスモーキーマウンテンのスラム街に就学前の幼児教育をする「パヤタス、バヤニハン、プリスクール」の園舎を、フィリピンを支援する団体と共同で立ち上げ、栄養価もある昼食を無償で提供しています。

現在は4～6歳の園児が25名おり、今年は25名を受け入れ、計50名を教育する予定です。教育の中でめっきに関わる内容も取り入れ、環境と水の大切な事も教えていくようにしております。

全鍍連の皆様で、弊社フィリピン工場を訪れる事がありましたら支援金箱がございますので、是非ご寄付をお願い申し上げます。

今年3月には青森、函館間に北海道新幹線も開業いたしますので、観光、ビジネスにご利用いただきたいと思います。

(函館の夜景は最高ですよ！)

以上、めっきを通して、子供達にめっきの素晴らしさ、社会に必要な事を現場主導で実施してまいりましたが、今後もめっき関連各位様と協力して、めっきの必要性を子供達主体に啓蒙してまいりますので、ご協力、ご支援お願い申し上げます。

(株式会社ケディカ 会長)